

「フクロウの産卵を確認(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

フクロウの観察は非常に興味深い。何となく頭が良さそうに見えて「森の賢者」とか「森の哲学者」なんて呼ばれたりもする。特殊な羽と飛び方で、ほとんど音をたてずに獲物に接近する術を持っているので、「森の忍者」という異名もある。



フクロウ(固有の種名)は、決して珍しい鳥類ではない。日本全国に分布し、私は文京区の大学構内でも声を聞いたことがある。しかし夜行性なので、なかなか人前に姿を現さない。樹洞性営巣なのだが、巨木が減った今は慢性的な住宅難で、民家の軒下にも営巣するほどだ。専用の巣箱は格好の営巣地となるのだ。



巣箱内のカメラも、フクロウ(メス)の顔を鮮明にとらえていた。フクロウは視野が狭い分、顔を270度も回転できる。赤外線ランプが気になるようだ。



最初に巣箱を訪れてから数日後の3月28日の午前中、巣箱内で大きく翼を開くような動きが見られた。恐らくそれが産卵の一瞬だったのだろう。



フクロウの尾羽の下に丸く白いものが見られる。確かに産卵をしたようだ。



フクロウに限らず、鳥類は産んだ卵をすぐには抱卵しない。あとから産む「予定」の卵との抱卵時間を、できるだけ揃えて、孵化日を近くする為だ。この日も産卵後、翌朝までほとんど戻ることはなかった。